

〔撮壤集〕中葦アジ

〔書言字考節用集〕六葦アジ

葦同毛葦云葦之初生曰葦蓬葦本草葦花

〔日本釋名〕葦

あしははし也はじめ也草木のはじめ也直指抄

〔東雅〕十五葦葦アシ

天地開闢けし初に葦牙アガヒの如くにして化り出でし神の名を可美葦牙ウツシカヒヒコ鼻

神と申せしと見えまた此國を葦原の國とも云ひしと見えたれば日本紀古事我國にして凡そ物

名の聞えしこれより先なるはあらず舊説に俗にはこれをヨシともいひまた伊勢國にては濱

荻ともいふなりと見えたり藻鹽此事によりても古も今も其地によりて物名同じからぬ事を

も知りぬべし唯其アシといひヨシといふ義の如きは知るべからず倭名鈔には爾雅註玉篇本

草註等を引て葦一名葦一名蘆アシ蘆はアシヅノ蘆の初生也蓬葦は葦の花名也と註せり本草

圖經に據るに葦は即蘆也葦は即蘆の成れるもの莖は蘆也或謂之薹薹は即荻也蘆の初生をい

ふにはあらず略○中其花をば芍と云ひ其萌の竹笋の如くなるをば菴チといふは古の時にアシガ

ヒといひ後にアシヅノといひしもの即此也

〔倭訓栞〕前編二あし略○中

葦は初めの義なりといへり開闢の初めまづ生じたるものは葦なり

よて此國を葦原中國といふなり白き條あるを難波あしといふ筆策の簧には津國鶉殿の葦を

用うといへり

あしのほわた 蘆の穂を衣の絮にするをいふ也小窓清記に製柳絮枕蘆花被以連牀夜話すと

みえたり真に似たる中の偽といふ連歌に蘆の穂はかさねし衣のわたならで是は関子齋の故

事也

〔書言字考節用集〕六葦一名蘆事

葦一名蘆事

〔倭訓栞〕前編三十六よし略○中

葦をよしともいふはあしの反語也といへり倭成卿の住吉社歌